

出雲市中小企業景況調査結果（平田商工会議所管内）

今 期（2011年10－12月）の 概 要

調査期間 平成24年1月5日～1月18日

対象企業 調査対象企業数30社 回答率28社（回答率 93.3%）
内訳：建設業3社、製造業6社、卸売業2社、小売業9社、サービス業8社

概 況

- 全業種の今期業況DIをみると、前期比で $\Delta 30.8$ （前期調査 $\Delta 19.2$ ）、前年同期比でも $\Delta 29.6$ （前期調査 $\Delta 22.2$ ）と、ともに前期調査の改善から一転してマイナス幅が拡大しています。来期業況見通しDIも、今期比で $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 11.5$ ）とマイナス幅が大幅に拡大しており、先行きへの不安が広がっていることがうかがえます。
- 全業種の今期売上DIは、前期比で 3.7 （前期調査 $\Delta 40.7$ ）とマイナスからプラスへと大きく改善しました。前年同期比では $\Delta 25.9$ （前期調査 $\Delta 25.0$ ）とマイナス幅がわずかながら拡大しています。来期売上見通しDIも今期比で $\Delta 59.3$ （前期調査 $\Delta 33.3$ ）とマイナス幅が拡大を示しており、売上の伸び悩みが懸念されています。

業種別景況調査の主要DI

1、建設業

- ・今期業況DIが、前期比で $\Delta 33.3$ （前期調査0.0）、前年同期比も $\Delta 33.3$ （前期調査0.0）と、ともにマイナスへ落ち込んでいます。また、今期売上DIは前期比で0.0（前期調査0.0）、前年同期比も0.0（前期調査0.0）で同水準を維持しています。

- ・来期業況見通し DI は、今期比で△66.7（前期調査0.0）、売上見通し DI も△66.7（前期調査△25.0）と、ともにマイナス幅が大きく拡大しています。今後の見通しが立たないために不安が広がっているようです。

2、製造業

- ・今期業況 DI が、前期比で△16.7（前期調査△16.7）と変化はありませんでしたが、前年同期比では16.7（前期調査0.0）とプラスを示しています。売上 DI で前期比0.0（前期調査△50.0）、前年同期比でも16.7（前期調査0.0）と、ともに改善が見られました。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で△33.3（前期調査△33.3）と同水準で推移しましたが、売上見通し DI は今期比で△50.0（前期調査△50.0）と現状維持を予測しています。

3、卸売業

- ・今期業況 DI が、前期比で0.0（前期調査0.0）、前年同期比でも0.0（前期調査0.0）と、ともに同水準を維持しています。売上 DI では、前期比で50.0（前回調査0.0）と増加しましたが、前年同期比では0.0（前期調査0.0）で変化は見られませんでした。
- ・来期業況見通し DI は、今期比では0.0（前期調査50.0）、売上見通し DI でも今期比で0.0（前期調査50.0）と、ともにゼロまで戻りました。「正月三が日の出雲大社周辺の交通規制が以前と変わり、参拝客の滞在時間が減ることで悪影響が出ている」という声もありました。

4、小売業

- ・今期業況 DI が、前期比で△50.0（前期調査△37.5）とマイナス幅が拡大しました。前年同期比では△55.6（前期調査△55.6）で変化はありませんでした。売上 DI は、前期比で低水準ながら△25.0（前期調査△75.0）まで回復。前年同期比では△55.6（前期調査△66.7）とわずかながらマイナス幅が縮小、2期連続の改善となりました。
- ・来期業況見通し DI は、需要の停滞や受注減少を背景に、今期比で△62.5（前期調査△37.5）とマイナス幅が倍増しています。売上見通し DI は△37.5（前期調査△37.5）と同水準でした。

5、サービス業

- ・今期業況 DI が、前期比で△28.6（前期調査△16.7）、前年同期比でも△42.9（前期調査△16.7）と、どちらも2期連続の悪化となりました。売上 DI は前期比で25.0（前期調査△28.6）と大きく上向きましたが、前年同期比は△42.9（前期調査△14.3）とマイナス幅が拡大しまし

た。ホテル関係では、「県外からの仕事での長期滞在者が数名単位で宿泊していることで売上を保っている状態」にあるようです。

- ・来期業況見通し DI は、今期比で△57.1（前期調査 16.7）とマイナスへと大きく落ち込んでいます。売上見通し DI でも今期比で△100.0（前期調査△42.9）と、来期は大変厳しくなるとの予測がされています。

設備投資動向

1、今期設備投資

全業種 設備投資を実施した事業所の割合は14.3%（前期調査 38.2%）で、「機械・備品」への投資の割合が最も多くなっています。

建設業 実施割合が0.0%で、投資なしとなっています。

製造業 実施割合が33.3%で、すべて「機械・備品」となっています。

卸売業 実施割合が0.0%で、投資なしとなっています。

小売業 実施割合が11.1%で、すべて「車両運搬具」となっています。

サービス業 実施割合が12.5%で、すべて「その他」となっています。

2、来期設備投資

全業種 設備投資を計画している事業所の割合は26.7%（前期調査 7.4%）で、「建物」「OA機器」への投資が同率で並んでいます。

- 建設業 設備投資を計画している割合が0.0%で、投資なしとなっています。
- 製造業 設備投資を計画している割合が62.5%で、「土地」「建物」「機械・備品」「付帯施設」「OA機器」が同率で並んでいます。
- 卸売業 設備投資を計画している割合が0.0%で、投資なしとなっています。
- 小売業 設備投資を計画している割合が11.1%で、すべて「OA機器」となっています。
- サービス業 設備投資を計画している割合が25.0%で、「建物」「その他」が同率で並んでいます。

経営上の問題点

- 全業種 第1位は「需要の停滞、受注減少」が62.5%と、6割を超えています。第2位は「単価の低下・上昇難」となっています。
- 建設業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、100.0%となっています。
- 製造業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、50.0%となっています。
- 卸売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」「商品（製品）在庫の過剰」で、それぞれ50.0%となっています。
- 小売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、62.5%と6割強を占めています。
- サービス業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で、60.0%を占めています。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。